

第45期 株主通信

2012年4月1日～2013年3月31日

証券コード：7775

Open the Medical Frontier



COOPDECH



医療社会を未来する——

大研医器株式会社



7期連続で増収・経常増益

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

平素は、格別なご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

ここに、2013年3月期決算と事業の状況をご報告申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、復興需要や政権交代後の積極的な構造改革等への取組みにより、円安傾向並びに株価の持ち直しが進み、景気回復への期待は高まる一方、欧州債務問題再燃への懸念や新興国の成長鈍化などを背景に、依然として先行き不透明な状況が続いております。

また、医療機器を取り巻く事業環境は、病院数の減少が見られるものの、高齢化による需要の増加に加えて、院内感染や医療事故防止のための医療用消耗品は、ニーズが底堅く、国内外で需要拡大が続いております。しかしながら、国内外の電機メーカーを中心とした異業種からの新規参入や既存メーカーの新分野への積極的な取組みなど、他メーカーとの競合は激しさを増しており、引き続き業界を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は、高品質製品の常時安定供給を優先事項と掲げ、ユーザーと密着した営業活動の推進、品質を確保しながらもコスト競争力をもった生産体制の構築並びに高度先進医療分野への研究開発活動の強化に取り組んでまいりました。

代表取締役社長 山田 圭一

2013年3月期の決算は、手術室用の吸引器であるフィットフィックス及び病棟用の吸引器であるキューインポットが好調に推移し、また、シリンジェクター関連では特定保険医療材料であるPCAセットが好調に推移したことにより、売上高は70億68百万円(前期比8.5%増)、経常利益は12億50百万円(前期比23.2%増)、当期純利益は7億87百万円(前期比94.9%増)となりました。

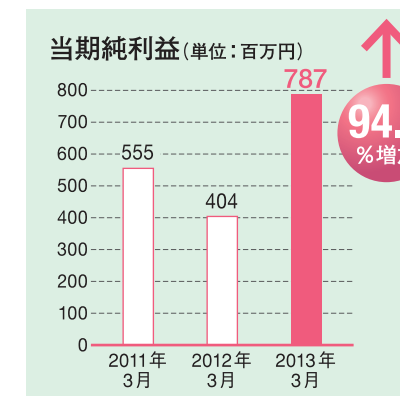
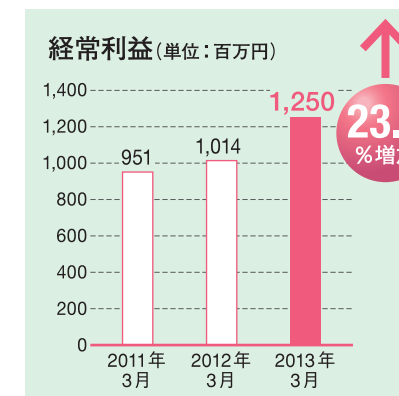
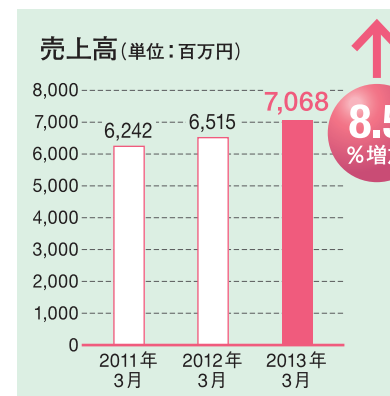
今後の当社を取り巻く環境は、医療費抑制策の基調が継続し、病院間の競争の激化や国内外のメーカーとの価格競争などにより、引き続き厳しい状況で推移するものと思われます。このような状況のもと、当社の営業・技術・製造が一体となって市場競争力を高め、独創技術で医療革命を目指す意味をこめたクーデック(COOPDECH)のブランディング強化に努めながら、さらなる業績の向上、企業価値の増大に向けて邁進すると同時に、顧客にとって不可欠なパートナーであり続けることを目指して取り組んでおります。

また当社が対処すべき課題として以下のことに取り組んでまいります。

- ① 既存製品の拡充・新製品の開発
- ② 海外販売の拡充
- ③ 優秀な人材の確保、教育の強化
- ④ 品質保証体制の充実
- ⑤ 強固な企業体質の確立

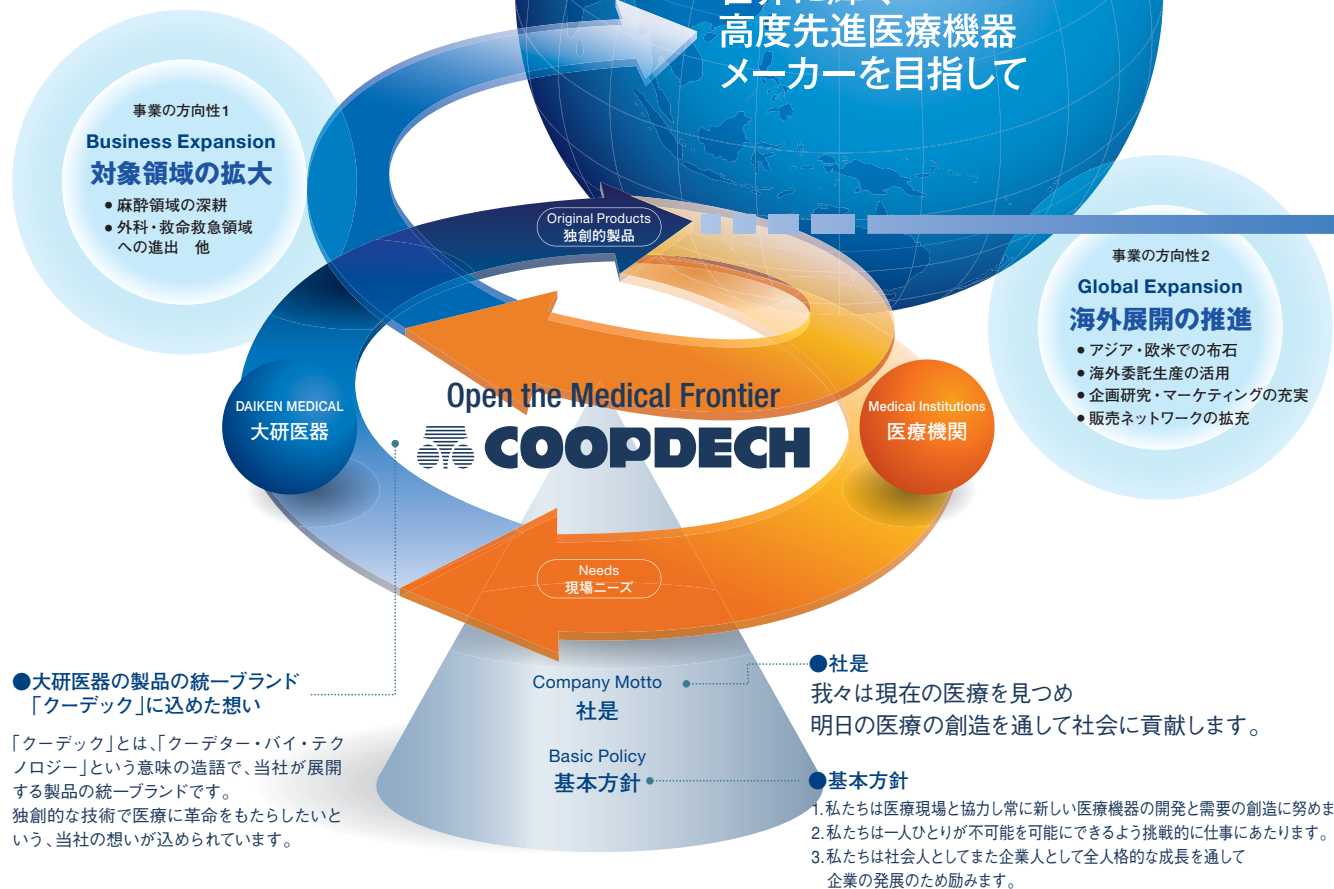
こうした状況を踏まえ、2014年3月期の見通しといたしましては、売上高75億円(前期比6.4%増)、経常利益13億円(前期比4.0%増)を計画しております。

また、当社は、株主への配当政策を重要経営課題の一つと認識し、経営成績に裏づけされた成果の配分を行うことを基本と考えております。この基本方針に基づき、2013年3月期の期末配当金を1株当たり43円とさせていただきます。



当社のビジネスの特徴

- 常に視野を広げ世の中の潮流の先を読む
- すべて顧客目線で捉え、医療現場とタッグを組んだ柔軟な組織で変化に機敏に対応する
- 焦点を絞った製品創りに没頭集中することによって特許に裏付けられた独創的な製品を提供し続ける



「世界に輝く高度先進医療機器メーカー」の実現に向け、独創的な製品を次々と開発

Suction

手術中の血液や体液等の廃液を吸収し、ワンタッチで凝固させることができます。凝固剤一体型で完全密閉のため、安心して移動・焼却処分が可能で、ウイルス等の院内感染予防に貢献します。

フィットフィックス



手術中に排出された血液や体液を吸収し、貯溜するディスポーザブル吸引器。

クーデック キューインポット



軽量かつコンパクトな使い捨て吸引器。病棟で簡単かつ清潔に使用可能。

Pump

手術後の痛みやがんの痛みを軽減するため、麻酔等の薬液を常に一定の流量で注入します。大気圧やメカトロニクス技術を利用することで、理想的な流量精度を実現しました。またPCAを利用することにより、現場のニーズにあわせて鎮痛剤の追加投与が可能となりました。

クーデック シリンジェクター PCAセット



昨年発売した新しいPCAでは薬液投与量の記録管理等が可能となりました。

クーデック シリンジポンプ



注射筒に入った輸液を注入する電動ポンプ。高い精度で多様な流量調整が可能。

Others

救急医療や手術室等で使用する様々な製品を作り出しています。今後は、低侵襲治療に係る最先端技術の開発や在宅医療等の新領域にも挑戦し、患者様のクオリティ・オブ・ライフの向上に繋がる製品を送り出していきます。

クーデック 気管支ブロッカーチューブ



片側の肺にだけ人工呼吸を行う「分離肺換気」をサポート。気管支への低負担が特徴。

クーデック ステリキープⅡ



衛生的な手洗いに使用する、殺菌水製造装置です。

挑戦を恐れず、先進的な医療機器の開発を通じて 社会に貢献し、企業価値をさらに高めてまいります。

Q 医療機器業界をとりまく環境に、 変化はありましたか。

A 医療機器をとりまく環境は、高齢化による需要の拡大に加え、院内感染を防ぐ医療用消耗品のニーズの高まりもあって、経済環境の変動に左右されることなく安定成長の道を進んでいます。ただし、国内外のメーカーを中心とした異業種からの新規参入や既存メーカーの新分野への取り組みなどが増え、経営環境は厳しい状況が続いているといっただいでしょう。

どんなに環境に変化が生じてても、当社はこれからも先進医療機器メーカーとして、ユーザーと密着した営業活動を推進します。そして他社が真似できない製品を市場に投入していきます。

Q 研究開発における取り組みを お聞かせください。

A 当社は研究開発型・医療機器メーカーとしての姿勢を貫き、今日まで着実に成長してきました。その不変ともいえる理念をさらに具現化するため、2013年4月より社長直轄の研究部を立ち上げました。これによって市場のニーズとマッチした新製品のラインナップをより拡充させるとともに、既存製品の改良にもスピードを上げて取り組んでいきます。また、病棟や在宅向けなど新しいフィールドへの挑戦も果敢に行っており、ユーザー、医療現場、社会が必要とする製品を世に送り出したいと考えています。

Q 更なる成長に向けての戦略は 用意されていますか。

A 成長戦略に向けてのキーワードは「現場第一主義」と「点から面へ」という言葉に象徴されます。原動力になるのは、特許をもった独創的な新製品の開発にあります。開発は



現場の医師との密接な協力関係を元に、新製品のアイデアとなるものを見つけ出します。そして医療の現場から持ち込まれたアイデアを、営業・技術・製造が一体となって具現化していきます。ここで重要なことは営業の人間がすべて研究開発者の視点で話ができるくらいの知能・技能を合わせもっていることです。ただ医療スタッフの話聞き取って持ち帰るのではありません。課題に対して現場で共に考え解決策を徹底的に追究し製品に結びつけていきます。それによって、本当に役立ち、喜んでいただける独創的な製品が完成します。また、取り組むフィールドが多様化し、救急や外科などで活用される製品が増えてきました。そこでアプローチ先を個別製品の“点”から「手術室」「救急救命」「病棟・在宅」の3分野である“面”に再設定して、必要とされる医療機器を丹念にチェックし、一つ一つ順序立てて研究開発に取り組んでいこうと考えています。

Q より強固な企業体質を確立するための 方策をお考えですか。

A 企業を支えるのは人です。優秀な人材が絶えず研究開発に挑戦することが当社の強みであり、存在価値だと考えます。近年、多くの学生が研究開発に携わりたいと大研医器の名を挙げてくれるようになりました。日本の医療機器メーカーで実際に医療機器、それも検査用具でなく治療用具の研究開発を行っているのは数社であり、未だ輸入超過の状態であることを非常に残念に思います。日本人の身体にあった用具を開発し、日本のユーザーである医療従事者や患者様に喜んでいただきたいと願います。そのために、専門知識のアップデートも必要と考え、大学病院から講師を招き、定期的に講義を行って最新医学を吸収できる環境を整えました。これにより独創

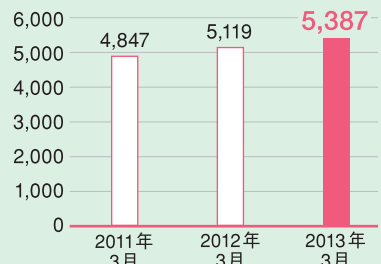
的な技術で医療に革命をもたらす「クーデック」ブランドにふさわしい製品づくりの可能性が高まり、ひいては「世界に輝く高度先進医療機器メーカーを目指す」目標が達成できると考えます。優秀な日本の研究者が生み出す医療機器「クーデック」は、おかげさまで全国の医師から高い信頼と支持をいただけるブランドにまで成長し、海外にも展開しています。

1968年に創業し、1990年より医療機器メーカーとして挑戦してきた大研医器の歩みはスピードを上げていきます。そして医療現場と一体になって独創的な製品を研究開発して、ひとりでも多くの方が病気から解放されることを使命に成長を続けてまいります。それこそが、当社をより強くする方程式のひとつといえるでしょう。



流動資産 **53億87百万円**

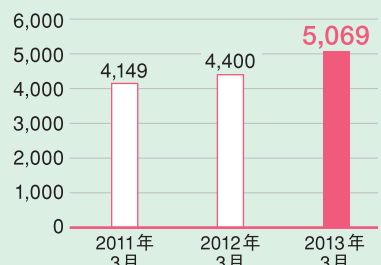
(単位:百万円)



流動資産は前事業年度末に比べて、2億67百万円増加し53億87百万円となりました。これは、主として製品が1億7百万円減少したものの、現金及び預金が2億54百万円、売掛金が40百万円、繰延税金資産が40百万円増加したこと等によるものです。

純資産 **50億69百万円**

(単位:百万円)



純資産は前事業年度末に比べて、6億69百万円増加し50億69百万円となりました。これは、主として繰越利益剰余金が剰余金の配当により1億70百万円減少したものの、当期純利益を7億87百万円計上したこと、自己株式が27百万円減少したこと等によるものです。

貸借対照表(単位:百万円)

科目	前事業年度 (2012年3月末)	当事業年度 (2013年3月末)
○資産の部		
流動資産	5,119	5,387
固定資産	2,695	2,576
有形固定資産	2,396	2,302
無形固定資産	103	87
投資その他の資産	194	186
資産合計	7,814	7,964
○負債の部		
流動負債	2,454	2,274
固定負債	960	619
負債合計	3,414	2,894
○純資産の部		
株主資本	4,397	5,066
資本金	495	495
資本剰余金	423	447
利益剰余金	3,613	4,231
自己株式	△135	△108
評価・換算差額等	△0.4	0.4
其他有価証券評価差額金	△0.4	0.4
新株予約権	2	2
純資産合計	4,400	5,069
負債純資産合計	7,814	7,964

損益計算書(単位:百万円)

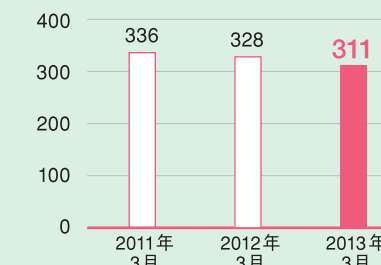
科目	前事業年度 (2011年4月1日から 2012年3月31日まで)	当事業年度 (2012年4月1日から 2013年3月31日まで)
売上高	6,515	7,068
売上原価	3,354	3,562
売上総利益	3,160	3,505
販売費及び一般管理費*	2,145	2,244
営業利益	1,014	1,260
営業外収益	13	3
営業外費用	13	14
経常利益	1,014	1,250
特別利益	—	7
特別損失	12	5
税引前当期純利益	1,002	1,252
法人税、住民税及び事業税	409	492
法人税等調整額	188	△27
当期純利益	404	787

キャッシュ・フロー計算書(単位:百万円)

科目	前事業年度 (2011年4月1日から 2012年3月31日まで)	当事業年度 (2012年4月1日から 2013年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	254	1,211
投資活動によるキャッシュ・フロー	△253	△113
財務活動によるキャッシュ・フロー	156	△843
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	157	254
現金及び現金同等物の期首残高	1,498	1,656
現金及び現金同等物の期末残高	1,656	1,911

研究開発費 **3億11百万円**

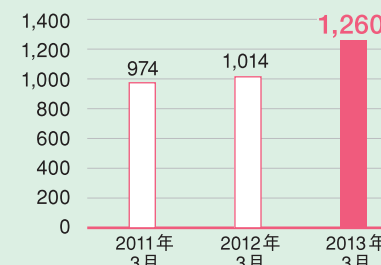
(単位:百万円)



研究開発費は、前年とほぼ同水準の3億11百万円となりました。主に、産学連携による先端医療機器の開発を行っております。

営業利益 **12億60百万円**

(単位:百万円)



営業利益は12億60百万円(前期比24.3%増)となりました。これは、主として売上の拡大等により売上総利益が増加したこと、販管費の節減に努めたこと等によるものです。

DAIKEN MEDICAL News Letter

2013・2
February

TV番組「今、日本を最も面白くする企業家たち」に当社会長が出演

日本を明るく希望へと導く最もエキサイティングな企業を特集する番組「今、日本を最も面白くする企業家たち」(BS12TweIIV)に当社が取り上げられました。

経営陣が語る当社の魅力や、現在の主力商品の開発エピソード、実際に商品が製造されている様子、将来の展望等が放映されました。

投資家の皆様をはじめ、各方面から多数の反響をいただいております。

※番組は当社ホームページで視聴できますので是非ご覧ください。
http://www.daiken-iki.co.jp/company/koho_douga.html



2013・6
June

「株主優待制度」の新設

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、今後とも多くの株主様に当社へのご理解とご支援をいただくことを目的として、株主優待制度を新設いたしました。

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上を保有されている株主様を対象として、毎年6月に1,000円分のQUOカードを贈呈いたします(初回は2013年6月)。

※QUOカード(クオカード)とは…コンビニエンスストア・書店・ファミリーレストラン等でご利用いただける、全国共通の商品券(プリペイドカード)です。



会社データ

■会社概要(2013年3月31日現在)

社名	大研医器株式会社
設立	1968(昭和43)年11月5日
	代表取締役会長 山田 満
	代表取締役社長 山田 圭一
売上高	70億6,835万円
従業員数	134名
本社	〒541-0045
	大阪市中央区道修町3丁目6番1号
業種	医療用機械器具製造販売、 医療用機械器具輸出入

■役員一覧(2013年6月25日現在)

代表取締役会長	山田 満
代表取締役社長	山田 圭一
専務取締役	山田 雅之
取締役	柳堀 真司
社外取締役	古賀 義久
常勤監査役	上原 康司
社外監査役	大工舎 宏
社外監査役	岩城 本臣

株式情報 (2013年3月31日現在)

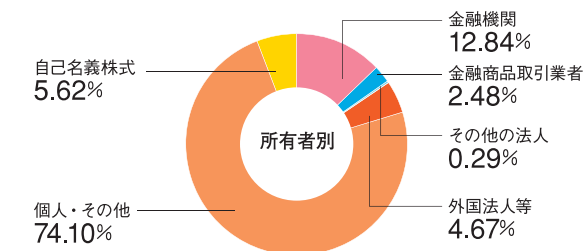
■株式の状況

発行可能株式総数	25,840,000株
発行済株式の総数	7,960,000株
株主数	3,288名

大株主	持株数(株)	持株比率(%)
山田 満	1,479,320	19.69
山田 圭一	1,469,440	19.56
山田 雅之	748,840	9.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	402,300	5.35
山田 米子	384,680	5.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	220,700	2.93
大研医器従業員持株会	102,600	1.36
メロンバンク エヌエー トリーティー クライアント オムニバス	101,100	1.34
野村信託銀行株式会社(投信口)	82,900	1.10
ザバンク オブ ニューヨーク メロン アズ エージェント ビーエヌワイエム エイエス イーエイ タッチ ペンション オムニバス	57,000	0.75

※当社は、自己名義株式を447,004株保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己名義株式を控除して計算しております。

■株主分布状況



所有者別分布状況	株主数(名)	株式数(株)	百分率(%)
金融機関	21	1,022,000	12.84
金融商品取引業者	33	197,687	2.48
その他の法人	17	23,300	0.29
外国法人等	49	371,400	4.67
個人・その他	3,167	5,898,609	74.10
自己名義株式	1	447,004	5.62
合計	3,288	7,960,000	100.00

株主メモ Stockholder Memo

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主
確定日 3月31日

中間配当金受領株主
確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告により行う。
公告掲載URL <http://www.daiken-iki.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



医療社会を未来する——

大研医器株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル14F
TEL:06-6231-9901(代表)
<http://www.daiken-iki.co.jp/>



この報告書は、再生可能な植物油インキを使用しています。